

乳がん検診は

済みましたか？

乳がんは40〜50歳代に増えています。早期発見により治療率は高くなります。

早期発見するためにも、忘れずに受診しましょう。

※詳しくは広報8月号をご覧ください。ただ、健康福祉課までお問い合わせください。

◆問い合わせ

健康福祉課
☎72-6934

医療機関で受ける

「子宮がん施設検診」のご案内

近年、子宮頸がんは、20歳代の若年層に増えています。9月に行った集団検診の際、受診できなかった方は、この機会に受診しましょう。

●期間 11月1日〜12月26日

●対象者 20歳以上の奇数年齢の方(平成21年3月31日時点での満年齢)

※昨年受診していない方は偶数年齢でも受診できます。

●受診方法

役場健康福祉課に申し込み、受診票を受け取ってください。また、検査機関に受付時間な

どを確認し受診ください。

●検査機関

公立小野町地方総合病院
本多医院

●持参する物 受診票・保険証

●検診料 2,000円

検査機関の窓口でお支払いください。

◆問い合わせ

健康福祉課
☎72-6934

こんにやく入りゼリーで 事故が起きています

子どもや高齢者の方に 食べさせないで！

本年7月、凍らせたこんにやく入りゼリーを1歳9か月の男児が食べたところ、のどに詰まらせ、死亡するという事故が発生しました。

「こんにやく入りゼリー」は、普通のゼリーに比べ、弾力性が強く、口の中で砕けにくいという商品特性があることから、噛む力の弱い子どもや高齢者を中心に窒息事故が相次いでおり、今回の事故を含め17件の死亡事故が国民生活センターに報告されています。

ミニカップタイプなどのこんにやく入りゼリーを、乳幼児や児童、高齢者の方は絶対に食べないようご注意ください。

国民年金「一ナ」

公的年金は社会全体で高齢者の生活を支える制度です

若い皆さんは、「年金は老年者のためのもの」と考えがちではないでしょうか。また、年金制度は不要なものなのではないでしょうか。

かつての日本は、家族で高齢者の暮らしを支えるのが一般的であり、私的な貯蓄などによって老後の生活を送ることができました。

しかし、貯蓄には弱点があります。自分の寿命は誰も予想することができませんし、そのために本来必要十分な貯蓄額を事前に知ることはできません。

若い頃から寿命を全うするまでには、何十年という長い時間があり、予想を超えるインフレにより貯蓄の目減りなどが生じる可能性があります。また、貯蓄することが難しい場合もあります。

子どもからの仕送りに頼ることも難しくなっています。すべての人が子どもから仕送りを受けられるわけではありませぬし、子ども自身の経済状況によっても変わってきます。

日本社会の構造変化、特に第一次産業で働く人の激減、核家族化と少子化の進行、サラリーマン世帯の増大等により、遠く離れた家族が私的な扶養に頼ることはさらに難しくなっています。

公的年金は、現役世代の保険料負担で高齢者世代を支えるという世代間扶養の仕組みを基本として運営されています。

これは、一人ひとり私的に行っていた老親の扶養や仕送りを、社会全体の仕組みでカバーするものです。

現役世代が全員ルールに従って保険料を納付し、そのときの高齢者全体を支える仕組みは、私的な扶養の不安定性などのトラブルを回避するメリットがあります。

年金を受ける頃の将来の経済社会がどうなっているか予測がつかない中で、公的年金は、基本的に物価の変動に応じて支給額が変動する仕組みとなっており、将来の経済変動にも十分に堪えられるものとなっています。

◆問い合わせ

郡山社会保険事務所
☎024-93213480
町民生活課
☎72-6933

